重症度と有症期間の評価、病歴聴取、身体所見、脱水治療、アウトブレイクの報告が必要かどうか、などを検討する。

市中下痢症
もしくは旅行者下痢症

便培養
（ターゲットとするのは下記の菌）
・*Salmonella* spp.
・*Shigella* spp.
・*Campylobacter* spp.
・*E.coli*　O157：H7
（もし血便あれば、Shiga toxinもチェック）
(遠くない過去に抗菌薬の使用歴があればC.difficile toxinもチェックする)

・*Shigella* spp.疑い
　→キノロンもしくはマクロライド系抗菌薬
・カンピロバクター疑い
　→マクロライド
・*E.coli*　O157　疑い
　→止痢薬は避ける
　抗菌薬の投与については賛否両論の意見がある

院内下痢症
(入院3日後以降に発症)

原則、CDトキシンテストのみ
（アウトブレイクが疑われる場合や、血便あるいは幼児の場合には、便培養を追加する）

抗菌薬中止とメトロニダゾールの投与を考慮

7日以上続く下痢

・*Giardia*
・*Cryptosporidium*
・*Cyclospora*
・*Isospora belli*
などの寄生虫を考慮して原虫検査を行う。また、場合によっては便中白血球などをみて腸炎があるのかどうかをチェックする

結果に応じて適宜治療